

## 軍事工業特集：ウクライナ東部危機と武器輸出への影響

漢和防務評論 20150703 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ウクライナ東部の紛争が同国の武器輸出にどのような影響があるか。漢和の記事を紹介します。  
ウクライナとしては、対外的には極力影響が少ないことを宣伝したいのだと思います。

ウクライナ東部危機は、LUGANSK 及び DONIETSK 地区を内戦状況に陥れた。ウクライナ大統領は、IDEX-2015 国際武器展示会でフランスを含む欧州の武器展示会場を訪れた。これは明らかに政治姿勢を示すためであった。ウクライナは、依然、名目上ロシアに対する武器禁輸を行っている。東部地区の戦争は、中国との軍事協力に影響を与えるだろうか？この問題について、KDR はウクライナ軍事工業界の関係者を取材した。彼は次のように述べた：2つの重要な装備品がこの地域で生産されている。まず第一に、LUGANSK 地区は、ウクライナの各種砲弾と装薬の主要生産基地である。この戦争で G.I PETROVSKIY 工場が破壊された。現在、特に 120 MM 弾の装薬が不足している、と。したがってウクライナは、東欧のかつてのワルシャワ条約機構の国家と緊密に連携し、ロシア規格の弾薬を確保しようとしている。

中国との軍事協力への影響は少ない。なぜなら、DONIETSK の TOPAZ 工場が生産する KACHUGA 型パッシブ・レーダーの工場はすでに中国との協力を完了している。中国は、この種レーダーを多数輸入し、複製している。現在同工場は緊急移転しつつあり、現段階では KOLCHUGA 型レーダーの輸出に影響が出ている。現在、開発されたばかりの KOLCHUGA-M 型レーダーは、国際市場に推奨されている。他に影響を受けている製品は、同工場で生産している自動化無線通信系統である。

また LUGANSK には、軍用の自動圧力装置及び液圧汲水ポンプを生産する PERVOMAYSK 機械工場がある。航空用爆弾の生産も影響を受けている。OFAB-100-120 型爆弾の生産は DONIETSK の TASKO 工場で行われている。これらの工場は、ウクライナ軍事工業全体にとっての比重は大きくない。消息筋が特に強調したのは、ハリコフ戦車工場の生産は正常で、戦車の輸出に大きな影響は無いということだ。

以上